

再評価結果（平成16年度 事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島威夫

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--------------|--------|-----|
| 事業名 | 一般国道 366号 半田 ^{はんだ} ～大府 ^{おおぶ} バイパス | | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 愛知県 |
| 起終点 | 自：愛知県半田市 ^{はんだ} 亀崎北浦 ^{かめざききたうら} 至：愛知県大府市 ^{おおぶ} 大府町 ^{おおぶ} | | | 延長 | 9.7 km | |
| 事業概要 一般国道 366号（半田～大府バイパス）は、愛知県半田市から大府市を経て名古屋市に至る延長約22 kmの幹線道路である。現道は車道幅員も狭く通勤・通学時に交通渋滞、騒音、振動による環境悪化等を解消すべく計画された半田～大府バイパスはJR東海道線との立体交差を含む延長9.7 kmの4車線道路である。 | | | | | | |
| S50年度事業化 | S39年度都市計画決定 (S46年度変更) | S50年度用地着手 | S51年度工事着手 | | | |
| 全体事業費 | 約152億円 | 事業進捗率 | 64% | 供用済延長 | 4.4 km | |
| 計画交通量 | 43,000台/日 | | | | | |
| 費用対効果 分析結果 | B/C (事業全体)6.8 (残事業)8.9 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 148/195億円 〔事業費：138/185億円〕 〔維持管理費：10/10億円〕 | 総便益 (残事業)/(事業全体) 1319/1319億円 〔走行時間短縮便益：1268/1268億円〕 〔走行費用減少便益：36/36億円〕 〔交通事故減少便益：15/15億円〕 | 基準年 平成15年 | | |
| 事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道のバス路線の利便性が向上する） ・災害への備え（緊急輸送道路としての位置づけあり） 他3項目に該当（定量的評価項目を含む） | | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 一般国道366号は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、半田市をはじめとする関係5市4町の首長で構成される知多地区国道整備促進期成同盟会より早期整備の要望を受けている。 | | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 南北を連絡する国道の交通量は増加傾向にあり、早期の分断解消が望まれている。 | | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 難航していた地盤改良も完了し、現在までに6.8 kmを供用している。 | | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 残る未供用区間（延長約2.9 km）についても、完了に向け計画的に事業を進めていく。 | | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 既製品や再生資源の活用などによりコスト縮減を図っている。 | | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 | | | | | |
| 事業概要図 | | | | | | |

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。